

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	清水町
所属名	保健福祉課
担当者名	

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	現状として、特定健診の令和2年度受診率は33.3%であった。令和3年度受診率は令和4年秋まで確定しないが、見込み値で31.5%であり、コロナ禍による受診控えの影響の他、感染拡大防止のため春の集団健診を中止したこともあり低下している。未受診者にはハガキと電話で受診勧奨を実施している。また、重症化予防の取組みについては、対象者に訪問等を通じて適切な受診勧奨、保健指導を行い、生活習慣病の予防・悪化防止を行っている。 課題としては、特定健診の受診率が低いため、生活習慣病予防のためにもより多くの人に特定健診を受診してもらうよう今後も積極的に受診勧奨を行っていく必要がある。また、健康教育等を通して住民の健康に関する意識を高めていき、将来の介護予防にもつなげる。	健康教育の実施 生活習慣の改善を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療につなげるため、特定健診や各種がん検診を実施するとともに、受診勧奨に努める。また、特定健診を無料化しより受診しやすい体制を作る。	特定健診受診率 令和3年度 40.0% 令和4年度 45.0% 令和5年度 60.0% （令和2年度実績 33.3%）	より多くの人に特定健診・がん検診を受けてもらうため未受診者に対し訪問や電話、ハガキで受診勧奨を行った。また、健診結果については、来所や訪問で直接会って返却し、その内容に関し説明をすることで、自身の健康状態を理解し、生活習慣を振り返ることで健康への意識が高まるように努めた。 特定健診受診率 令和3年度 31.5%	△	医療機関につながっていない人がいるため、今後も継続して訪問、電話、ハガキ等で健診の受診勧奨を行う。また、併せて保健指導・栄養指導を行い、生活習慣病の重症化予防を図りながら、健康についての意識を高めていくことで将来の介護予防にもつなげていく必要がある。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	・老人クラブの数自体が減っていることから、実施回数と参加者数ともに減少しており、達成不可能な値であるため、目標設定の値を見直した。 ・1食量の食事を完食できていない人も多く、フレイル予防についての講話も取り入れていく必要がある。	元気で長生き料理教室 健康寿命を目指すために必要な食生活について学習を行います。学習会では栄養士とパセリの会の会員で分担し、食に関する講話を行い、1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供します。	料理教室 実施回数 令和3年度 10回 100人 令和4年度 10回 100人 令和5年度 10回 100人 （令和2年度実績 10回 100人） 感染症拡大防止のため中止	元気で長生き教室 1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供する。 料理教室 実施回数 令和3年度 4回 33人	△	令和2年度は、感染症拡大防止の観点から中止となったため実績はなく、令和3年度も各クラブの感染症に対する考え方により直前で中止となった箇所が多かった。そのため、実績は例年に比べて少ない。 感染症予防のため外出頻度の減少や活動量の低下、それによる生活リズムの乱れ等で食リズムが崩れやすい傾向があるため、今後も各クラブの希望に沿いながら健康づくりに向けて情報提供を行っていく。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において65歳以上の人口は15年間で1千万人以上増えた一方、全国の老人クラブの会員数は減少の一途をたどっています。清水町においてもそれは同様で、平成30年度に12クラブ427人の会員がいましたが、令和4年度4月1日現在は10クラブ274人となっており深刻な課題となっています。 老人クラブは地域を基盤とする高齢者の自主的組織であり、活動内容は幅広く、日常の健康管理やボランティア等の社会奉仕活動、趣味やサークル活動の学習活動を展開していますが会員が増えないことによる高齢化、活動の停滞が進み、新しい活動に積極的に取り組めない現状があります。	老人クラブへの加入促進 個々の会員が生きがいを持って活動することができるよう、老人クラブへの加入促進を図ります。単位クラブの領域を超える高齢者の健康づくりとボランティア活動等の各種活動を支援するため、老人クラブ連合会へ補助金を交付します。	単位クラブ数 会員数 令和3年度 13団体 450人 令和4年度 13団体 450人 令和5年度 13団体 450人 （令和2年度実績 12団体 391人）	・令和4年3月31日現在の会員数～274人 ・地域福祉活動（健康体操、食生活改善指導、ふまねっと講習 等）～12クラブ 年2回 ・社会奉仕活動（地域の清掃や花壇整備～随時、施設へのタオル寄贈～600枚）	×	（課題）活動内容は幅広く多岐にわたっているが、単位老人クラブ内では役員のなり手もおらず、新しい活動に取り組むことができていない現状がある。 （対応策）町民や高齢者が興味を持てる活動を、広報物等により、広くPRしていく必要があると考える。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において少子高齢化が急速に進む中、清水町においても総人口が減少し高齢化が確実に進んでいます。このような中で、健康で働く意欲のある高齢者に活躍の場を提供するシルバー人材センターは、高齢者の知識、経験、技能をいかした就業の場を確保、提供することにより、高齢者の社会参加、生きがいや健康増進に寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献しています。 しかし、高齢年齢が増加しているにもかかわらず、同センターの会員数は減少傾向が見受けられ、新規会員の増強が喫緊の課題となっています。	シルバー人材センターの活動支援 清水町シルバー人材センターを通じて高齢者が働く機会と個人の経験や知識を生かす場を提供することにより、高齢者の生きがいづくりを支援します。介護福祉に関わる作業についても携わることができるよう体制づくりに努めます。また、会員相互の交流を図るための機会を創出します。	シルバー人材センター 会員数 令和3年度 男性102人 女性59人 合計161人 令和4年度 男性105人 女性60人 合計165人 令和5年度 男性105人 女性60人 合計165人 （令和3年度実績 男性75人 女性50人 合計125人）	令和4年3月31日現在の会員数～125人 事業実績～受注件数 466件、契約金額 58,089,061円 安全教室、技術講習会～年間1回実施	△	（課題）シルバー人材センターは高齢者の健康増進や生きがい創出に繋がる就業機会を提供する団体として地域に密着した事業を継続しているが、高齢者の増加にもかかわらず入会者の減少は著しい。高齢者の生活スタイルが多様化していることから、就業先としての選択肢とはならない現状も見られ、年々厳しい運営状況になっている。 （対応策）高齢者の社会参加を促進していけるような多様な就業開拓、適切かつ円滑な就業機会を確保に積極的に取り組んでいく。